俳句

2月21日（土）
当季雑詠

合田　青幹

大欅枯葉を纏ひ仁王立

来て停る電車の軋み春めける

吉本　伸秋

遠初音風の中より転がり来

梅一輪づつに宿りし日の澄める

小笠原さちを

括られし薔薇の芽立ちの右左

しんがりの診察室や日脚伸ぶ

3月21日（土）
須崎市桑田山

合田　青幹

一行の花の東道仕る

孫弟子もなべて芳翠忌を修す

小笠原さちを

雲流れ初音転がる段畑

師を偲ぶ一行追老いし鳥雲に

川柳

七十歳過ぎて厳寒の日々　小澤幸泉

（K姉追悼）
もっと教えてほしかったひとすじの道

故里に明日の鐘が鳴り響く
腰痛がまだ癒れず冬の朝
中嶋のいのちをさかす泥の水
寒稽古今年は休みして嫁が戻る
耳鳴りの奥に私が住んでいる
熱燗のいのちを焼やす二人旅

居酒屋にとおい会話が消えてゆく
貧困を二つに分けた五に立つ
人生の地図も中途で塗り変える

（十句自選）

読書クラブ続き

「これからの朝鮮半島と日本の関係が良好なものになっていくかどうかは、ひとえに歴史認識問題から目を背けない姿勢を取れるかどうかにかかっている。」という著者の主張は、私達への大切な教訓であるでしょう。高退協は新しい仲間を迎えましたが、読書会の新たな会員の参加が期待されます。今年度最後の月例会には、小島、高橋、浜田隆、浜田昌、樋口の5名の参加でした。金高堂親書Best 2の「資本主義の終焉と歴史の危機」でした。現在の経済や民主主義の状況についての分析に同意することが多く、活発な意見交換となりました。この他、今年度とり上げた書物は次の通りです。

6月「成長か成熟か」天野祐吉
8月「疑似科学入門」池内了
10月「里山資本主義」
　　落合浩介・芸芸広島
12月「稽乱雲の彼方に」
　　江藤千秋

山岡靖夫遺作展　～書と平和のコラボ～　のご報告

3月14日～20日山岡郵楽書堂で彼の遺作を展示、最終的には250余人の方々に鑑賞していただきました。あわせて14日には「山岡靖夫さんをしのぶ会」を持ちました。

しのぶ会は岡崎修一さんの司会で、初め安芸市民合唱団による素晴らしい合唱があり、そのご唐岩明男さま、岡崎帛さまによる山岡靖夫さんの人柄や書にたいする温かくそして清新なコメントがあって、なごやかな会の流れが醸成されました。そのあと多くの方々から、こもごも思い出の紹介があり、山岡さんの多方面における活躍が浮き彫りにされました。買い物ブギなどの楽しい思い出に思わずほほえまれた方もいたようです。ご発言の中に山岡さんとの関わりにとどまらず、その後のご自分を語られる方が何人もいらっしゃいました。これは山岡さんの行動や人柄を契機としてその後その方が成長されたことの証であって、それは山岡さんの追慕にとどまらず明るい未来へとつながるものであり、まさに山岡さんの本懐であろうと気づいた次第です。

遺作展開催はささやかな取り組みではありましたが、山岡靖夫さんの志に沿うものとなり、皆様方と、人々の幸せと平和を願う気持ちを共有できたかと存じています。実行委員会としては、所期の目的は達成し成功裏に終了することができたと思っています。

準備の段階から高退協の皆様や多くの方々の共感を頂き、ご支援ご協力をいただきました。厚く御礼申し上げます。

山岡靖夫遺作展実行委員長　谷内純一

短歌

亡き友の愛嬢たち
榊原忠彦

逝きてなほ君の友情つづくのか姉妹の愛嬢再度訪ひ来ぬ
（君とは安芸市の故・旧友井上英生君）

稀にしか化粧せざりしわが妹子は小六恩師と並び映せり
（ふと手に取りし写真。市第一小での岡田巧先生とともに。先生は伊野小校長時、勤評不提出で免職となる）

緋牡丹の花芽十ほど見つけたり零下で明けし今日は立春

料理本
山本晶子

憧れて買い求めたりし『あなたのために』辰巳芳子のスープ集なり

本棚の『ごちそうさまが、ききたくて。』栗原はるみの家族のごはん

本棚を埋めつくしたる料理本活かさねばならぬ思うことしきり

ほんとの春
叶岡淑子

戦争が廊下の奥に立っているそんな気のする底冷えの春

この国のほんとの春を迎えたし祈る思いの老いの一票

わが庭の今日も小雨に洗わるるレッドロビンは朱に輝けり

お詫びと訂正

前号の榊原さん二首目の歌の結句は「遺歌集」でした。お詫びして訂正します。

ニュース193号の記事で議案書用の「山の会」の原稿を、間違えてクラブ紹介に使った事をお詫びします。